



ひがしとよなか だより

学校目標 豊かな心を持ち、よく考え、自分の力で生きぬく子ども

令和6年(2024年)度11月号

豊中市立 東豊中小学校

校長 河上洋介

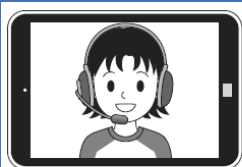
全国学力・学習状況調査等の結果について

4月17日(水)から19日(金)にかけて実施した全国学力・学習状況調査等の結果についてお知らせします。概観すると、算数では、平均正答率が府、全国並みだったのに対して、国語の平均正答率が府や全国をやや下回っていました。また、正答数分布のグラフを見ると、国語、算数ともに、府や全国のグラフがなだらかな山の形になっているに比べ、でこぼことしていてばらつきが多くなっていました。

国語について詳しく見ていくと、記述式の問題において、府や全国との平均正答率の差が大きくなっていました。さらに、記述式問題の無回答率も府や全国に比べて高くなっています。また、テストと一緒に実施したアンケートの結果を見てみると、国語、算数とも「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめた」と回答した割合が、府や全国に比べて高くなっていました。これらの結果から「書くこと」に課題があると考えることができます。書く力を高めるために、学校では、ノート指導等を通して書く活動を充実させることが大切と考えています。その際、ただ書くだけでなく、自分の考えをより正しく、相手に分かりやすく伝えるためにふさわしい言葉を選ぶことができるように、子どもたちの語彙を増やすことがポイントになります。また、「事実」と「意見、感想」を分けて書くことも大切です。子どもたち自身が語彙を増やすことを意識するために、普段の授業の中で、例えば、習った言葉を使って短文を書く活動や、友達の発表を聞いていて分かりやすかった言葉をノートに書き留めるといった活動を充実させることが大切です。また、語彙は、問題文を正しく読み取って問題で何を問われているのかを理解する、選択肢を吟味し選ぶといった、「読むこと」においても役立ちます。授業では、「引用」等、学習に使う用語の意味を理解できるように指導することが大切です。

まとめると、言葉の力の基礎基本である「語彙」や「学習用語」の指導を充実させ、子どもたちが「自分で書けた。」「相手に伝わった。」と感じる体験を重ねることが、本校の授業改善のポイントです。また、漢字を書けるようにすることについても、普段の授業でノートを書く時等に、習った漢字を使って書くように指導することが大切です。

最後に、全国学力・学習状況調査の問題の中から1つ紹介します。学校の取組みについてオンラインで紹介し合う学習活動をしている様子が扱われていて、発言⑦の和田さんの話し方の工夫として適切なものを1から4までの選択肢から選ぶ問題です。



⑥

よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦

そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。



- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
- 2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
- 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
- 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

正答は選択肢2です。本校で最も多い誤答は選択肢1を選んだもので、この傾向は、府、全国も同様でした。間違えた理由として、「引用」という用語の理解が十分ではなかったことが考えられます。

<連絡やお願い>

・小学校スクールカウンセラー福嶋さんの次回派遣日は11月11日(月)です。面談

希望がありましたら担任あてお申し出ください。